

第 2 章

10の姿が育つプロセス

Ⅰ 【10の姿が育つプロセス】の考え方

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を一言で表すと、『幼児期に育みたい資質・能力を子どもの具体的な姿』で表したものとと言えます。

ここで、確認しておきたいことは、「10の姿は、小学校に入学するまでの到達点ではない」ということ、また「5歳児になって突然現われるものではない」ということです。

人が生まれてから一生をかけて育んでいく「資質・能力」を「10の姿」から捉え、その育まれるプロセスを表したのが、この【10の姿が育つプロセス】です。

【10の姿が育つプロセス】は、2つの専門的な視点から意見をいただき、作成しました。1つは、現段階で明らかにされている子どもの心身の発達や学びのプロセスなどに関する研究をもとにした科学的な知見です。もう1つは、専門職である保育者、教師からの意見です。日々、子どもたちの学びに寄り添いながらつかんでいる「育ちの実感」を盛り込んでいます。

目の前にいる子どもたちの姿からどのような「資質・能力」が育ちつつあるのか、また、育っている「資質・能力」はどのようなプロセスで培ってきたのか、といった点からこの【10の姿が育つプロセス】を使っただき、学びをデザインする一助にいただけたらと思います。

園では、子どもの育ちのつながりが具体的に見えることで、その子に応じた環境構成や援助が可能となります。これをもとに、「生き物とたくさん触れ合うことができる自園の環境をどう生かせば、自然の不思議に興味をもつだろう」「友達と一緒に活動することを楽しむ前には、自分が周りの人から愛されていると感ずることが大事。今、この子にはどのような関わりが必要だろうか」という具合に、園の実情に合わせて使っただきたいと思います。

小学校では、子どもは0歳からのつながりの中で今があること、子どもの育ちはその子なりのものであり、その子の育ちを踏まえた支援が必要であることを今一度思い返していただき、「今あるこの姿は、どのような育ちをたどって培われてきたのか」「どの段階と捉え、支援していけばよいのか」という具合に、子どもを理解し、子どもに寄り添う際の手掛かりにいただきたいと思います。

10の姿は、小学校に入学した後も発展していきます。例を挙げてみましょう。5歳児の段階で協同する楽しさは、同じ目的に向かってみんなで力を合わせることの面白さです。ところが、小学校中学年頃になると、この楽しさの質が変化していきます。目的を共有して活動しようと思っても、個々人の得手不得手が互いに見えて、子ども個人の尊厳等の思いが絡み合い、ただ友達と協同することを楽しむことでは満足しない子どもたちも出てきます。つまり、協同から、互いのよさを認め合いつくり上げる協働を求め始めるのです。協同が協働に繰り上がっていくためには、社会的価値への気付き、自己についての深い洞察といった過程を踏まなければなりません。このプロセスを支援することが、今、教師に求められている力量です。

なお、ここでは、0歳から7歳までの子どもの姿を表していますが、そのスタートである0歳の時期の姿は、乳児保育の3つの視点である「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちに通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と重なります。そして、幼児期には遊びの中で一体的に育まれてきた資質・能力が、7歳以降は各教科等で育てたい資質・能力につながっていくことも理解していただけないかと思います。

2【10の姿が育つプロセス】

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	10の姿	6歳	7歳以降	
伸びやかに 伸び伸びと育つ	心地よさを感じる 健康 ■体の清潔、気持ちよい環境での心地よさを感じる ■伸び伸びと、はう、立つ、歩くなど、思い通りに体を動かす楽しさを感じる ■やりたいことに向かって体を動かす面白さを感じる		基本的な動きを身に付ける ■座る、立つなどの姿勢を維持し、バランスをとる動き ■走る、跳ぶなどの移動する動き ■持つ、投げるなどの用具を操作する動き		動きを調整する ■やりたいことに向かって、動きを調整する		健康な心と体 健康に気付く ■運動と健康の関わりについて気付く ■健康な生活（運動、食事、休養、睡眠などのバランス）について気付く		健康について自覚する ■けがの防止、病気の予防について自覚し行動する ■心と体の密接な関係に気付く	
	依存と愛着 ■特定の人へ依存する ■特定の人への愛着を感じる		人間関係 安心感を感じる ■特定の人に見守られていると安心感を得られ、自分のやりたいことをやってみようとする		自ら行動し、主張する ■やりたいことに向かって自ら行動する ■自分のやりたいことを主張する ■自分でできることは自分でし、自信をもつ		自立心 自己調整をする ■自分の力でやり通すためにはどうしたらよいか考え、工夫する ■自分のやりたいことが他者とぶつかった時、自分の気持ちを何とか調整する ■自己の意見を言い、友達の意見を聞きながら、気持ちの自己調整をする		得手不得手を自覚する ■得意なこと不得意なことを自覚する	自律する ■自分で決めて行動する
	感情を共有する ■特定の人からの愛情を感じ、自分も愛着を感じる ■まわりの人へ興味をもつ ■ものを介しての人とのやり取りを楽しむ		行動を共有する ■友達のまねをする ■友達と一緒にすることを楽しむ ■友達との関わりを楽しむ ■かわいばんこを楽しむ		目的を共有する ■友達と関わりながら目的を見出す ■共通の目的が実現する喜びを味わう ■共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりする		協同性 協同することを楽しむ ■互いの役割を意識したり、ルールを共有したりしてうまくいくように考える		中学年：仲間意識を共有して協働する 高学年：社会的課題に対して協働する	
	気持ちを体験する ■自分の行為に対する様々な気持ちを体験する		善悪を知る ■褒められたり叱られたりして、してよいことと悪いことを知る		さまりの必要性を感じる ■さまりがあることを知る ■さまりがあることで、遊びやすくなったり、生活しやすくなったりすることを感じる ■さまりの大切さに気付く、守ろうとする		相手の立場に立つ ■友達の気持ちを考えながらさまりをつくったり、工夫したりする ■友達の気持ちを知り、自分の気持ちに折り合いをつける		道徳性・規範意識の芽生え 相手の思いやる ■自分にしてほしいことを友達にする ■自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりして、友達の気持ちを推測する ■まわりの人の気持ちに配慮して行動する 善悪の判断に基づき行動する ■人からよい行いだと認められる行動をする ■人からよい行いだと認められる行動をして損をする場面も乗り越える	
	家族との関わりを楽しむ ■家族に興味をもつようになり家族が好きになる ■家族と関わるようになり家族と関わることの楽しさを感じる ■家族に大切にされていることを感じ、家族を大切にしようとする		友達や先生、知っている人と一緒にすることを楽しむ ■友達と一緒に活動することを楽しむ ■働く人や仕事に興味をもつ ■地域の行事などに参加し、地域の人との関わりを楽しみながら、地域のよさや文化、生活の豊かさに気付く		あこがれをもつ ■なりたい人にあこがれる ■なりたい自分をもつ ■身近な仕事の役割や働く人の思いに気付く		役に立つ喜びを感じる ■クラスや学校の一人として役に立つことをする ■クラスや学校の一人として役に立つ喜びを感じる			
身近な人と気持ちが通じ合う	知りたいと思う ■まわりの人やものに興味をもつ		環境 ■興味をもったことについて詳しく知りたいと思う		地域の人との関わりを楽しむ ■知りたいと思ったことを人に聞いたり、本などで調べたりする ■公共施設を訪れ、施設の様子や働いている人に関心をもつ		調べたことを伝え合う ■自分が調べたことを遊びや生活の中で伝え合う		社会生活との関わり 調べたことを活用し、判断する ■目的のために調べたことを活用し、その情報に基づき判断する ■公共物や公共施設は、皆のものであり、自分の生活に関係がある場だと分かり、大切に利用する	
	五感で感じる ■人やものの存在を五感で受け止め体を動かして確かめる		試しながら考える ■目的と手段のつながりをイメージし、試しながら考える		直感的に考える ■自分の視点に立って考える ■見たままをそのまま捉えて考える ■自分だけでなく他者の視点をもって考える		具体的な操作を伴って考える ■対話をしながら考える ■書き言葉を使って考える ■見かけに左右されず、目の前の具体的な操作によって物事を論理的に考えていく		思考力の芽生え	
	感じる ■生き物に気付く ■生き物に興味をもつ ■散歩を楽しむ		触れる ■生き物の形や大きさ、動きに興味をもち、触って確かめる ■生き物の誕生に関心を示す		関わる ■生き物を飼ったり、野菜を育てたりして、生き物には命があることを知る ■草花や木の実などを見つけて、遊びに取り入れる ■身近な自然現象に関心をもち、それらを取り入れて遊ぶ		自然との関わり・生命尊重 気付く ■季節によって自然や人間の生活に変化があることに気付く ■命が失われてしまうと戻らないことに気付く ■命の尊さに気付く、いたわったり大切にしたりする		働きかける ■不思議に感じたことについて、見通しをもって調べる	
	感じる ■ものの存在を五感で受け止め、イメージをもつ		見分ける ■ものの大小を見分ける ■ものの形を見分ける		対応する ■1つのものとのを対応させる		とらえる ■3までの数を理解する ■10までの数を理解する ■時刻やお金に関心をもつ ■形や大きさ、個数を感覚的にとらえる ■簡単な図形の名前が分かる ■ものの位置を表す ■とらえた形のおおよそを線でかく ■数をまとまりでとらえる		個数や順番を数える ■10までの数や順番を数える ■長さ、広さ、かさなどの量を比べる ■量の比べ方を見つける ■加減法の計算をする ■生活の中で時刻を読む ■まとまりに着目して考える	
	言葉の響きを楽しむ ■歌やわらべうた、絵本、手遊びなどに親しみ言葉の響きやリズムを楽しむ ■音や言葉のまねをする		言葉 生活の中の言葉が分かる ■家族や親しい人の言葉が分かる ■「ワンワン」が犬のことだと分かる ■家族や親しい人の名前をよぶ ■一語文、二語文、三語文、多語文とだんだんつながって話す		生活の中の言葉を使う ■簡単な事実や因果関係のある文を話す ■未来、過去、仮定、条件、受け身の入った文を使う ■標識のもつ意味が分かる ■助詞やものの単位などを使いながら話す		言葉と文字がつながる ■文字に興味をもつ ■文字を遊びに使うなどして楽しむ ■読める文字を探して単語などを読む		数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	
身近なものと関わり感性が育つ	思いを表す ■泣く・笑う・声を出す ■喃語や体の動きで思いを表す		思いを伝える ■言葉と感情をつなげる ■思いを言葉で伝える ■家族や親しい人との会話を楽しむ		相手の思いを受けとめる ■相手の話を聞く ■相手に分かりやすく話すことの大切さに気付く		経験や考えを伝える ■経験したことや想像したことを話したり、考えを説明したりする		言葉による伝え合い 思いや考えを伝え合う ■話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞く ■互いの話に関心をもち、相手の思いや考えを受けて、つないで話す ■相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えて話す	
	快・不快を表現する ■表情やしぐさ、発声などにより、感情を表す		表現 やさしさを感じる ■特定の人やさしさや愛情を感じる		美しさや力強さを感じる ■自然やさまざまな環境、人、ものなどの美しさや力強さを感じる		感じたことを言葉で表現する ■やさしさに感謝の気持ちを表現したり、美しさや力強さを言葉で表現したりする		豊かな感性と表現	
	歌やリズムを楽しむ ■動作や音などの繰り返しや強弱を楽しむ ■自然の音を感じる		音や絵などで表現することを楽しむ ■音を出したり、絵をかいたりすることを楽しむ ■歌を歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして楽しむ		ものづくりを楽しむ ■さまざまな素材を使ったものづくりを楽しむ		合唱や演奏を楽しむ ■みんなで歌ったり、楽器を演奏したりすることを楽しむ		鑑賞を楽しむ生活を豊かにする	